

第73回 発電用設備規格委員会 原子力専門委員会 議事録

1. 日 時：2013年5月29日（水）10:00～18:30
2. 場 所：日本機械学会 第1会議室
3. 出席者：(委員23名中、出席者21名；敬称略)
小山（三菱重工）、永田（日立GE）、堂崎（日本原電）、小木曾（川崎重工）
肥田（中部プラントサービス）、町田（テプコシステムズ）、野村（関電）、杉江（原安進）、菊池（JNES）
岩佐（東芝）、小島（東電）、山田（中部電力）、糸田川（電気協会）、田中（日本製鋼所）
鹿島（電中研）、笠原（東大）、月森（JAEA）、神坐（富士電機）、佐藤（発電技検）、望月（阪大）
欠席：鬼沢（JAEA）、兼近（鹿島）
代理：北条（三菱重工：栗飯原委員）
オブザーバー：齋藤（原安進）、浅山（JAEA）、山本／藤井／濱口（三菱重工）、伊藤（東電）
加納／高坂（日本原燃）、清水／日高（日立GE）、吉村（東芝）、稲田（電中研）
西澤／古川／寺門（日本原電）
4. 配布資料
73-1：第72回原子力専門委員会議事録案
73-2：投票結果
73-3：新規質問及び公衆審査結果
73-4：第64回発電用設備規格委員会議事録案
73-5：原子力専門委員会委員／分科会委員案
73-6-1：日本機械学会の規格委員会等での資料の取り扱い
73-6-2：シビアアクシデント時格納容器構造健全性評価ガイドライン
73-6-3：ASME 規格値取込方針内規提案
73-6-4：事例規格一般要求事項投票対応
73-6-5：デジタルRT検討タスク報告書案
73-6-6：規格委員会補足倫理規定案
73-6-6-3：日本機械学会の国際展開の指針
73-6-7：過酷事故時コンクリート製格納容器構造健全性評価タスク設立趣意書
73-6-8：高速炉 ISI 方針検討タスク活動報告書
73-6-9：高速炉溶接規格作業会の移管
73-6-10：原子力規格類協議会資料
73-6-11：ASME Code Week Miami における MDEP プロジェクト SDO 打合せ報告
73-6-12：原子力専門委員会傘下の各分科会・作業会会議資料の電子化
73-7：高速炉規格 2013 年追補案原子力専門委員会書面投票意見対応案
73-8-1：再処理設備設計規格（2016 年）高度化に係る発電用設備規格委員会書面投票（No. 211）意見対応について〔報告〕
73-8-2：原子力専門委員会での溶接規格改定案に対する投票結果と対応について
73-8-3：再処理設備規格 維持規格の改定案
73-9-1：コンクリート製原子炉格納容器規格審議項目
73-9-2：コンクリート製原子炉格納容器規格改訂案投票結果
73-9-3：コンクリート製原子炉格納容器規格に対する原子力専門委員会コメント対応表
73-9-4：コンクリート製原子炉格納容器規格改訂案（原子力専門委員会コメント反映案）
73-9-5：コンクリート製原子炉格納容器規格改訂案と ASME 関連規格との対応
73-9-6：コンクリート製原子炉格納容器規格改訂案（原子力専門委員会コメント反映案）
73-10-1：ステンレス鋼の材料定数の誤記修正
73-10-2：アライナブラケット等の個別検査対象からの除外理由
73-11-1：原子力専門委員会再書面投票 No. 304 意見回答案
73-11-2：原子力専門委員会書面投票 No. 305 意見回答案
73-11-3：規格委員会書面投票 No. 207 意見回答案

73-11-4：規格委員会書面投票 No. 207 意見回答案
73-12-1：設計・建設規格への質問回答案件
73-12-2：設計・建設規格 2013 年追補における材料規格等引用年版改訂案規格委員会書面投票対応
73-12-3：設計・建設規格の事例規格集の編集上の修正提案
73-12-4：設計・建設規格第 I 編 2012 年版正誤表提案
73-13-1-1：QNC2005103 質問回答案
73-13-1-2：QNC2005105 質問回答案
73-13-2：規格委員会書面投票回答案
73-13-3：材料規格 2012 年版改訂案（その 2）
73-14-1：金属キャスク構造規格 2013 年版改訂案
73-14-2：金属キャスク構造規格 2007 年版質問回答案件
73-15-1：配管減肉管理に関する技術規格（2006 年版）の改定の概要について
73-15-2：配管分岐合流部の必要最小厚さの設定（BWR）
73-15-3：配管分岐合流部の減肉管理要領の見直し（BWR）
73-15-4：配管分岐合流部の必要最小厚さの設定（PWR）
73-15-5：配管分岐合流部の減肉管理要領の見直し（PWR）
73-15-6：PH の見直し（PWR）
73-16：各分科会活動報告

5. 議事内容

（1）開会

小山委員長が委員会開会を宣言した。

（2）出席者紹介

出席者全員の自己紹介を行った。

（3）議事次第確認

議事次第案の確認を行い、変更の提案はなく、承認された。

（4）前回議事録確認【資料 73-1】

前回議事録案については既に事務局から関係各位に送付済であるため、内容紹介は省略したが、承認された。

（5）投票結果報告【資料 73-2】

事務局より、原子力専門委員会投票 No. 303 から 314、規格委員会投票 No. 218 から 228 の投票結果が報告された。

（6）質問受付&公衆審査結果【資料 73-3】

事務局より、設計・建設規格に関する新規質問（3 件）、溶接規格に関する新規質問（1 件）、金属キャスク構造規格に関する新規質問（1 件）の受付が報告された。

また公衆審査結果として設計・建設規格事例規格压力容器用調質型合金鋼鍛鋼品 SFVQ1B に関する規定案、維持規格事例規格極限荷重評価法に用いる流動応力案、金属キャスク構造規格事例規格バスケット用ほう素添加アルミニウム合金規定案の意見受付はなかったことが報告された。

（7）第 64 回発電用設備規格委員会議事録等報告【資料 73-4】

事務局より、第 64 回発電用設備規格委員会の議事録案が報告された。

（8）原子力専門委員会委員／分科会委員の承認【資料 73-5】

事務局より、以下の通り原子力専門委員会、原子力専門委員会傘下の各分科会委員の再任、退任、新任の委員候補が報告された。

原子力専門委員会：

〔再任〕 堂崎幹事、栗飯原委員、鬼沢委員

設計・建設分科会：

〔再任〕 清水委員

材料分科会：

〔退任〕 横山委員

維持規格分科会：

〔再任〕 鬼沢委員

溶接分科会：

〔新任〕 五十棲氏（三菱重工）

使用済燃料貯蔵施設分科会：

〔新任〕 小池上氏（IHI）、上田氏（原燃輸送）

〔退任〕 広瀬委員

環境疲労評価分科会

〔再任〕 上田委員

再処理設備分科会

〔新任〕 森教授（北大）

〔退任〕 奈良林委員

事務局及びオブザーバー退室後、審議した結果、原子力専門委員会委員の再任候補が了解され、各分科会委員の再任候補、新任候補が承認された。

（９）原子力専門委員会運営に関する審議／報告事項

〔審議事項〕

（９－１）委員会資料取扱内規提案【資料 73-6-1】

齋藤委員より規格委員会等での資料の取扱い内規提案に関する説明が行われた。本件、以前検討を行っていたが、公開性等の問題から検討を中断していた。しかし現在ホームページで各種規格データがアップされていること等を踏まえ、検討を再開した。基本は原則公開であるが、JSME 規格作成以外の目的には使用不可とすること、資料配布は委員長判断によること等を基本とする。まずは原子力専門委員会で書面投票実施後、各専門委員会で書面投票を実施する予定。議論の結果、原子力専門委員会の書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

（９－２）シビアアクシデント時格納容器構造健全性評価ガイドライン【資料 73-6-2】

永田副委員長よりシビアアクシデント時格納容器構造健全性評価ガイドライン案の原子力専門委員会書面投票の提案に関する説明が行われた。本件、原子力専門委員会及び規格委員会の御意見伺いの書面投票結果を踏まえて、特に延性破壊の補正係数、補強リングの効果等の見直しを行い、またタスク内でのコメント等の反映を行った。議論の結果、書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

（９－３）ASME 規格値取込方針内規提案【資料 73-6-3】

小山委員長より規格委員会書面投票（可決）意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案は妥当であること、規格委員会に回答案の説明を行うことが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・既に存在している換算方法の相違による規格内の不一致、不整合は整合を図る方向で検討する。目標としては設計・建設規格等、次回改訂時（2016 年版）に反映する。

（９－４）規格委員会補足倫理規定案【資料 73-6-6】

小山委員長より規格委員会補足倫理規定案の原子力専門委員会書面投票の提案に関する説明が行われた。議

論の結果、書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

（９－５）デジタルＲＴ検討タスク報告書案【資料 73-6-5】

山田委員よりデジタルＲＴ検討タスク報告書案の原子力専門委員会御意見伺いの書面投票の提案に関する説明が行われた。議論の結果、書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・原子力専門委員会においてタスク報告書作成が完了したら、タスクは解散するのか？→規格化は溶接分科会で行うが、タスク内には既存のＲＴフィルムの記録をデジタル化させる際のルールを検討すべきとの意見もあり、次回の原子力専門委員会までにタスク内の意思統一を図る。

〔報告事項〕

（９－６）事例規格一般要求事項投票対応【資料 73-6-4】

小山委員長より規格委員会書面投票（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案は妥当であり、編集上の修正であることを規格委員会に説明を行うことが了承された。

（９－７）過酷事故時コンクリート製格納容器構造健全性評価タスク設立趣意書【資料 73-6-7】

小山委員長より過酷事故時コンクリート製格納容器構造健全性評価タスク設立趣意書に関する説明が行われた。議論の結果、規格委員会にタスク設立の提案を行うことが了承された。

（９－８）高速炉 ISI 方針検討タスク活動報告書【資料 73-6-8】

月森委員より高速炉 ISI 方針検討タスク活動報告書案の原子力専門委員会御意見伺いの書面投票提案に関する説明が行われた。議論の結果、書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

（９－９）高速炉溶接規格作業会の移管【資料 73-6-9】

杉江委員より高速炉溶接規格作業会の移管に関する説明が行われた。高温規格分科会は高速炉規格関係の高度化検討のために、高温規格分科会傘下に溶接規格作業会を設けて検討を進める予定。現状溶接分科会に高速炉溶接規格作業会があり、高速炉溶接規格作業会を溶接分科会から高温規格分科会の傘下に移管することとした。それぞれの分科会で作業会の廃止／設置の手続きを行う予定。また、両分科会間で本件に関する情報の共有、発行される規格に関する設備規格全体の体系からの検討の要望があった。

（９－１０）原子力関連学協会規格類協議会状況【資料 73-6-10】

小山委員長より原子力関連学協会規格類協議会の状況として、原子力規制庁からの要望事項に対する協議会の対応等に関する説明が行われた。規制庁からの委員構成、審議プロセス、トレーサビリティの充実等の要求に対し、委員構成、審議プロセス等は規約通りに実施していること、トレーサビリティの充実として、例えば録音機の採録は今後試しに実施し、その結果をもって判断する等、回答した。

（９－１１）MDEP の状況【資料 73-6-11】

永田副委員長より ASME Code Week Miami における MDEP プロジェクト SDO 打合せ報告に関する説明が行われた。JSME からは Code Convergence 課題の優先度付け等に関するプレゼンを実施した。

（９－１２）原子力専門委員会傘下の各分科会・作業会会議資料の電子化【資料 73-6-12】

事務局より原子力専門委員会傘下の各分科会・作業会会議資料の電子化に関する説明が行われた。

昨年来、規格委員会傘下の各専門委員会等の会議資料の電子化、規格委員会共有スペースへの会議資料データのアップロードの試運用は順調に実施されており、特に問題はなく、システムの有効性は十分確認されている。本件、3 月までが試運用期間となっているが、今後各分科会・作業会は本件の本格運用を図る。また 6 月～7 月は異動の時期であり、委員、特に三役の交代が発生した場合、本件に関する引継をスムーズに実施する。

また、現状会議資料は上記会議資料データのアップロードを行う一方、紙ベースでも事務局まで送付しているが、完全なペーパーレス化は多々課題（電子データと会議資料は完全には一致しないのでは？閲覧希望者に

はどの様に対応するのか?等)があるため、当面は紙ベースを従来同様事務局まで送付することになった。

(9-13) 日本機械学会の国際展開の指針【資料 73-6-6-3】

小山委員長より日本機械学会の国際展開の指針に関する説明が行われた。

(10) 原子力発電用設備規格に関する報告／審議

(10-1) 高速炉規格改訂案に関する審議【資料 73-7】

高温規格分科会の浅山主査より高速炉規格 2013 年追補案原子力専門委員会書面投票(可決)意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が妥当であることが委員全員の賛成により承認された。

(10-2) 再処理設備規格改訂案に関する審議【資料 73-8-1~3】

再処理設備分科会の山本主査、加納幹事、溶接規格作業会の高坂幹事より再処理設備規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①設計規格改訂案【資料 73-8-1】

規格委員会書面投票(可決)の意見回答に関する報告が行われた。

②溶接規格改訂案【資料 73-8-2】

溶接規格改訂案の原子力専門委員会書面投票(可決)意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が妥当であること、規格委員会に書面投票の提案を行うことが委員全員の賛成により承認された。

③維持規格改訂案【資料 73-8-3】

維持規格については初版発行時の書面投票時に出された検討に時間を要する案件や補修章追加の検討を進めているが、これらを反映した維持規格改訂案の方針に関する説明が行われた。議論の結果、この方針に関する原子力専門委員会御意見伺いの書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・ 充てん材による補修工法は再処理独自に確性試験を実施しないのか?
→ 軽水炉を準用することで、確性試験は考えていない。
- ・ 確性試験は発電技検で実施されているが、その内容をどの様に規格に取り込むか等については、今後の維持規格改訂案の議論の中で確認する。
- ・ 補修章の構成は軽水炉維持規格の補修章構成が元になっているが、今後軽水炉維持規格の補修章構成は抜本的に見直すことを予定している。今後は、維持規格分科会と連携を図り進めること。
- ・ 検査評価と補修取替の流れにおいて、判定基準に適合しない場合、原因究明が完全に済んでから補修取替に進むのか? まずは補修取替を行い、並行して原因究明を行うケースはないのか? 原因究明を行う時期を検討すべきである。

(10-3) コンクリート製原子炉格納容器規格改訂案に関する審議【資料 73-9-1~6】

コンクリート製格納容器規格分科会の西澤幹事、古川委員よりコンクリート製原子炉格納容器規格改訂案の原子力専門委員会書面投票(可決)回答案に関する説明が行われた。回答案では、書面投票の意見を反映して本文、解説の修正を行っているが、技術上の修正か、編集上の修正か、その区分けが明確となっていないため、その整理を行い、技術上の修正箇所については2週間の期間で再投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・ CVE-4120 の工事監視者の要件及び責任について、本文では「知識を有するもの」となっているが、解説では「経験を有するもの」となっており、差異がある。「経験を有するもの」とすると、対象者が限定されてしまうのでは? → 構造性能確認試験の記載とも関連するため、全体を通して検討する。
- ・ 「CVE-2430 シース」は新規に追加されたものであるため、技術上の修正になる。
- ・ 委員からの参考意見に対するコメント対応についても、修正箇所が技術上か編集上かの区分けが分るように

整理して示してほしい。→拝承。

(10-4) 維持規格改訂案に関する審議【資料 73-10-1, 2】

維持規格分科会の野村主査、検査作業会の寺門主査、評価作業会の北条主査より維持規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①ステンレス鋼の材料定数の誤記修正【資料 73-10-1】

規格委員会書面投票（反対票有り）の意見回答案に関する説明が行われた。

母材の Z 係数の再計算の結果が現行規格より大きく、現行規格の Z 係数が非保守的であるため改訂すべきという反対意見に対して、今回の改定案が誤記修正であること、再計算の位置づけを明確にするよう修正することになり、その修正案を原子力専門委員会委員に送付することになった。

②アライナブラケット等の個別検査対象からの除外理由【資料 73-10-2】

規格委員会書面投票（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案は妥当であること、規格委員会に回答案の説明を行うことが委員全員の賛成により承認された。

(10-5) 溶接規格改訂案に関する審議【資料 73-11-1～4】

溶接分科会の杉江幹事より溶接規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①原子力専門委員会再書面投票 No. 304 意見回答案【資料 73-11-1】

原子力専門委員会再書面投票 No. 304（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案は妥当であり、編集上の修正であることが委員全員の賛成により承認された。

②原子力専門委員会書面投票 No. 305 意見回答案【資料 73-11-2】

原子力専門委員会書面投票 No. 305（一部反対意見有り）の意見回答案に関する説明が行われた。「溶接施工法認証試験表曲げ試験要領の改訂案」では JIS Z 3122 が 2013 年に改訂が行われる予定であることが分かったため、今回の改訂案からは除外して今後再提案することになり、反対意見は取り下げとなり、可決となった。「事例規格コンクリート製原子炉格納容器溶接規格改訂案」では溶接規格で規定されている溶接部の吸収エネルギーと設計・建設規格で規定されている吸収エネルギーは同じであり、反対意見は取り下げとなり、可決となった。その他回答案は妥当であり、編集上の修正であることが委員全員の賛成により承認された。

③規格委員会書面投票 No. 207 意見回答案【資料 73-11-3】

規格委員会書面投票 No. 207（反対意見有り）の意見回答案に関する説明が行われた。継手区分の分類における全半球形鏡板のフランジ部の有無による分類見直しは、周溶接になる継手を継手区分 A とするのは不自然と思われたため、提案したものであるが、フランジ部の長さを考慮するべきという反対意見に対応するため、今回の改訂案からは除外し、今後再提案することとなった。その他回答案は妥当であり、編集上の修正であり、規格委員会に意見回答案を説明することが委員全員の賛成により承認された。

④規格委員会書面投票 No. 207 意見回答案【資料 73-11-4】

規格委員会書面投票 No. 207（反対意見有り）の意見回答案に関する説明が行われた。溶接規格で要求されている最小保持時間は T1 または T2 のいずれかではなく、T2 にすべきという反対意見に対応するため、最小保持時間は規定保持下限温度以上になった後の時間 T2 以上であれば良いという溶接規格の要求事項に関する記載のみに修正することとした。ただし、一定の温度になった後の時間 T1 で保持時間を管理することを否定するものではない。その他回答案は妥当であり、編集上の修正であり、規格委員会に意見回答案を説明することが委員全員の賛成により承認された。

(10-6) 設計・建設規格改訂案に関する審議【資料 73-12-1～4】

設計・建設分科会の永田主査より、設計・建設規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①設計・建設規格への質問回答案件【資料 73-12-1】

設計・建設規格への質問回答案件に関する説明が行われた。議論の結果、QNC2005104 の質問回答が委員多数の賛成（賛成：20 票、保留：1 票）により承認された。主な議論は以下の通り。

・回答では耐圧試験を要求していないが、漏洩試験は要求されるのではないかと PWR では水張り試験を実施している様だ。→設計・建設規格では漏えい試験単独の規定はない。従って耐圧試験を行わない場合に漏えい試験のみを要求する様な回答はできない。

②設計・建設規格 2013 年追補における材料規格等引用年版改訂案規格委員会書面投票対応【資料 73-12-2】

設計・建設規格 2013 年追補における材料規格及び溶接規格引用年版改訂案の規格委員会書面投票（可決）意見回答に関する説明が行われた。議論の結果、意見回答は妥当であり、規格委員会に意見回答を説明することが委員全員の賛成により承認された。

③設計・建設規格の事例規格集の編集上の修正提案【資料 73-12-3】

設計・建設規格の事例規格集の編集上の修正提案に関する説明が行われた。議論の結果、修正提案は妥当であり、編集上の修正であることが委員全員の賛成により承認された。

④設計・建設規格第 I 編 2012 年版正誤表提案【資料 73-12-4】

設計・建設規格第 I 編 2012 年版正誤表提案に関する説明が行われた。議論の結果、提案は妥当であり、規格委員会に提案を説明することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・P. 3 の PVE-9293 (4) は 3293 (4) が正である。
- ・解説 9-8 のシュラウドは炉心シュラウドとする。これも正誤表案件に含める。

（10-7）材料規格改訂案に関する審議【資料 72-13-1～3】

材料分科会の山田主査より、材料規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①設計・建設規格付録材料図表への質問回答【資料 73-13-1-1, 2】

設計・建設規格付録材料図表への質問回答に関する説明が行われた。議論の結果、QNC2005103, QNC2005105 の質問回答が委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・QNC2005105 について、S45C の許容値 (S_u , S_y) は直径に応じて 2 種類あるが、熱処理要求もこれに応じて変わるのでは？→S45C はボルト材以外には使用されないため、焼ならしは行わず、焼入れ焼もどしのみで良い。

②材料規格 2012 年版改訂提案（その 1）規格委員会書面投票回答【資料 73-13-2】

材料規格 2012 年版改訂提案（その 1）の規格委員会書面投票（可決）回答に関する説明が行われた。議論の結果、回答は妥当であり、規格委員会に回答の説明を実施することが委員全員の賛成により承認された。

③材料規格 2012 年版改訂案（その 2）原子力専門委員会書面投票提案【資料 73-13-3】

材料規格 2012 年版改訂案（その 2）の原子力専門委員会書面投票提案に関する説明が行われた。議論の結果、原子力専門委員会書面投票を実施すること、原子力専門委員会書面投票可決を条件に規格委員会の書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・SPV490 の S 値の設計係数 (4.0) を SGV480 の設計係数と同様の 3.5 にすることを提案しているが、なぜ SGV480 との比較を行うのか？SPV490 の品質が良ければ、比較をしなくても設計係数 3.5 にすることができるのでは？→共に BWR の格納容器鋼板に用いられており、SPV490 の品質は SGV480 より優れているので、比較を行った。

（10-8）使用済燃料貯蔵施設規格改訂案に関する審議【資料 73-14-1, 2】

使用済燃料貯蔵施設分科会の清水委員より使用済燃料貯蔵施設規格改訂案に関する説明が行われた。内容は

以下の通り。

①金属キャスク構造規格 2013 年版改訂案【資料 73-14-1】

金属キャスク構造規格 2013 年版改訂案の原子力専門委員会書面投票（可決）の意見回答案に関する説明が行われた。議論の結果、意見回答案は妥当であり、編集上の修正であることが委員多数の賛成（賛成：20 票、保留：1 票）により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・他規格等の改訂に伴う技術的変更について、通例新旧対応表等によりその根拠（エビデンス）を確認するが、本案の場合、それが見当たらない。→根拠（エビデンス）は作成していない。今後検討する。→保留票は取り下げできない。

②金属キャスク構造規格 2007 年版質問回答案件【資料 73-14-2】

金属キャスク構造規格 2007 年版質問回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案は妥当であることが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・「化学成分及び機械的強度が同等以上」としているが、機械的強度はともかく、化学成分が同等以上というのは、言い方としておかしくないか？→年版読替の解釈の根拠としては問題ないと思われるが、今後材料分科会、溶接分科会等とも連携してその言い方を明確にする。

（10-9）配管減肉管理規格改訂案に関する審議【資料 73-15-1～6】

配管減肉分科会の稲田主査、濱口委員、日高委員、藤井氏（三菱重工）より配管減肉管理規格改訂案に関する説明が行われた。今回の書面投票対象は配管分岐合流部の管理に関する追加要求案、PH の見直し案であり、議論の結果、原子力専門委員会の書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・安全率として 3.0 を管理目安としているが、その根拠は電共研のデータ以外にあるのか？→PVP で発表した文献は参考文献として追加する。

- ・耐圧部の健全性について、改造工事の際、耐圧試験が最高使用圧力の 1.5 倍の時など、実際の応力値が S_y を超えてしまうことはないのか？また、局所減肉を模擬した試験結果はあるか？→全面 t_{sr} 厚さにおいて S_u に対する安全率は 3.0 であり、実力的には 4.0 の裕度を持っており、問題はない。局所減肉を模擬した試験では 8 以上の裕度となった。

- ・減肉範囲の想定に関し、分岐合流部の流れのパターン（方向）を考慮して設定しているが、流速という観点で検討フローに入ることはないのか？→流速で整理すれば減肉測定範囲を限定できるかもしれないが、現状は考えておらず、実機の流速を網羅して想定している。

（11）各分科会活動報告【資料 73-16】

各分科会より活動報告が説明された。

6. その他

原子力専門委員会の今後の予定は以下の通りになった。

第 74 回：2013 年 8 月 28 日（水）10:00～17:00（予定）JSME 第 1 会議室

第 75 回：2013 年 11 月 27 日（水）10:00～17:00（予定）JSME 第 1 会議室

以上